

有機溶媒系、ペプチド、核酸の濃縮・精製

エタノール、アセトン、ジメチルホルムアミド等の有機溶媒、 さらに強酸・強アルカリにも耐性のある分離膜で溶媒抽出に対応

製薬プロセス、バイオプロセスでは膜分離技術が工程の合理化、製品品質の向上、収率アップに貢献しています。岩井ファルマテックでは耐有機溶媒、耐酸、耐アルカリの性能を持った膜を用いて、いままで膜分離では対応できなかった分野に対して広く膜分離技術を応用しています。例えば、耐有機溶媒性能を持ったNF/UF膜を用いた濃縮・精製装置、さらには耐溶媒・耐熱・耐摩耗性を持ったセラミックUF/MF膜設備等の設計・製作を行い、数多くの実績をあげております。

■ 耐薬品性UF/NF膜の特徴・利点

- 分画分子量200～10,000
(中分子から高分子まで対応)
- 低温～常温でプロセスを組めるので、製品の温度による劣化を防止
- 蒸留操作等のような相変化を伴う操作でなく省エネルギー
- 数十mLから数百m³の処理に対応可能な設備。
(小スケール試験から量産機まで供給可能)
- 防爆設備の納入実績多数



NF/UF膜モジュール

■ UF/NF膜 スパイラルモジュールの耐薬品性

S、AS-Type		対溶剤性(*)	
Acetonitrile S	S	Methanol	S
Ethyl acetate	S	Ethanol	S
2-Propanol	S	Hexane	S
Acetone	S	Tetrahydrofuran (THF)	S
Toluene	S	Dimethylformamide	S

* 対象有機溶媒に25℃ 3ヶ月浸漬

S 安定
 LS 限定的に安定
 NS 不安定

耐アルカリ性(例)

4% NaOH	10% NaOH
20% NaOH	10% KOH

耐酸性(例)

20% H ₂ SO ₄ *	4% HNO ₃ **
30% H ₃ PO ₄ *	20% HCl**
	15% Acetic acid**

* 対象酸溶液に90℃ 24時間 浸漬

** 対象酸溶液に25℃ 24時間 浸漬